

## けいじばん

### ○次回活動日のご案内

- 日時 2月19日(日曜日) 10時～15時。(下記の土窯半兵衛見学希望者は17時頃まで)
- 場所 君津市清和公民館(君津市西栗倉57、電話0439-37-2195、次頁地図) 1階会議室
- 内容 活動報告&総合検討会
1. 班活動の報告 (植物調査、コナラ林更新、きのこ、栽培きのこ、野鳥、シンボルツリー、木工)
  2. 安全対策の報告 (9/11事故の総括、経過報告と今後の対策)
  3. 安全教育ビデオ
  4. 森林整備の検討 (これまでの活動の成果と状況の変化を踏まえ、今後の森づくりの方向性について検討し、会員共通の認識醸成を図る)
  5. 土窯半兵衛見学 (オプション、こだわりの炭焼きによる地域おこしに成果をあげている清和地区のNPO「土窯半兵衛」を見学し、主宰者の木曾野氏と情報交換する。)
- 携行品 ①千年の森植物リスト (05年8月会報誌No.21又は千年の森ホームページからプリント)  
②千年の森整備計画 (可能な方は千年の森ホームページからプリント)  
③9・11事故対策委員会報告書 (05年12月会報誌No.25に添付)  
④千年の森今後の活動計画案 (本26号誌に添付)  
○弁当・飲み物 (近隣に食堂等はありません、館内で昼食休憩します)
- その他 駐車可。役員及び発表予定者は9時30分集合。

○活動不参加の会員の皆様にお願ひ;「千年の森」発足以来3年間、一度も活動に参加されていない少数の方々にお願ひします。仕事・家庭・健康などの事情や他の活動との関連で、当分の間参加出来ない方は、休会(規約上は退会)されるようお勧めします。退会後もご希望があれば「千年の森便り」をメール配信します。活動参加が可能になり次第いつでも活動へのご参加又は再入会は可能です。(注) 在籍されている会員には個人名特定で次年度(4月～翌年3月)の保険料(スポーツ安全保険)を支払っています。退会される場合は保険料払込前(3月25日以前)に上記アドレス宛連絡お願ひします。

## かつどうのきろく

1月22日(日) 雪 積雪深く通行・作業困難のため活動中止

1月30日(月) 晴 臨時活動 参加者5名 1月22日の活動中止のため積み残しとなったきのこ収量調査やシンボルツリー樹高調査などのため、近隣会員有志による活動を行った。雪の中ご参加の皆様お疲れ様でした。

○活動は、天候に恵まれ、無事終了しました。参加者は、新谷・高塚・長村・新井、菅沼の5名。定刻通り集合し、菅沼氏の乗用車で現地へ。ダムサイトにはまだかなり雪が残っており、鍵のかかっているところへの坂はまだ5センチくらい一面の雪。乗用車はとてまあがれそうもないので、脇に駐車。長村さんのハイゼットの新車は4WDで、さすがに雪に強く、無事橋のたもとまで。橋の手前も雪が残っていた。県民の森の作業員さんたちがすでに先に入林していた。もう一週間以上もたっているのに、雪はほとんど解けてしまっているとの予測ははずれ、島内至る所真っ白。サク、サクッと雪を踏みしめながら進む。特に木を切り倒し明るくなったところの方が残雪が多かった。途中の木の枝等にとどまらず地面まで降って積もった雪はなかなか解けないようである。千年の森広場も半分は雪が残り、ブルーシートは雪に隠れ、所々見える程度。特にコナラ更新林は南東側に常緑樹があり陽が差さないため、全く地面は見えず、銀色の世界。あちこちに雪の重みで折れたり曲がったりした木が見える。特に常緑の木の被害が大きいようだ。(新井記)

○きのこ収穫・収量調査;キノコ調査は高塚、菅沼、新谷、新井が担当。先ず広場近くの04年ムカデ伏せシイタケを調査。大きなホダギに小さなシイタケがびっしりついているが、殆どは小さすぎて収穫できるのはほんのわずか。次回の調査は大いに期待。その後は、ナメタケの株植菌から順次調査、雪の中から株を探したすも、どれも収穫は皆無。シイタケの地面に伏せたものはこの雪のために湿気が多くなり、大きく育ったものが(育ち過ぎ

も多かった) 大分とれたので、一同一安心。それにしても雪と落ち葉をかき分けての収穫作業は結構大変。寒いものではと着込んできたのに、途中から汗が出てくるほどの陽気になって、上着を脱ぐ人もでた。前回ナメタケが沢山収穫出来たので期待して最後の調査場所04年植エナメタケ1、2も雪をすくいとり、落ち葉をかき分けて採したが、殆ど採れず、採れたものは、濃い褐色になったものばかり。総収穫量はシイタケ2750g、ナメタケ620g、合計3370g。ただし、伏せてあったホダギではシイタケが大きくなりすぎ、おまけに雪で水分を十分すぎるほど吸い込んでおり、それで収穫量の割に重さは大きな数字がでたのである。ともあれ、4人の共同調査はちょうど1時間11時20分には終了。直ちに樹高調査の手伝いに向かう。(新井記)

○シンボルツリーの樹高調査；樹高の測量はまず樹から距離を測って測定地点を決め、そこから仰角を測り記録する。後でこれを製図して樹高を出す。測定するシンボルツリーはほとんど平坦な場所にあるため比較的楽に作業が出来ると思ったが、灌木などの障害物が視界をふさぎ少々手間取る。また冬枯れで樹形の全体は見やすいが、頂点となる枝先を特定するのはなかなか難しい。しかしシイタケ調査班が測量に合流してからは作業もはかどった。結果的に10時から12時までの2時間で合計9本のシンボルツリー（準シンボルツリー含む）の計測を行った。今回の計測方法による誤差は1メートル前後と考えられるが次回作業時に伐採する樹を測量し、それを倒してから実測して誤差を確認してみてもどうかと考えている。

また清和県民の森の集材作業班が炭焼き用材の搬出作業をしていました。午前中のみとのことでした。私たちが12時過ぎには作業を終了し、豊英を後にしました。(長村記)



[清和公民館案内図]

